

# としょかん南アルプス

南アルプス市立図書館通信 N031 2015年10月14日発行 <http://m-alps-lib.e-tosho.jp/>

図書館には、南アルプス市の過去と未来をつなぐ貴重な資料が数多くあります。かつて甲府盆地で「地方病」と呼ばれ恐れられていた日本住血吸虫症は、終息宣言から来年で20年となります。この病気を忘れず語りついでほしいとの願いをこめて、南アルプス市在住の医師がDVDにまとめました。これも貴重な資料のひとつです。今回の「南アルプス市の著名人」で詳しく紹介します。



医学博士・住血吸虫症の研究者

**加茂悦爾** 医師

かも えつじ 医師

(前半記事一部省略)

加茂さんは旧小笠原町(現・南アルプス市)の出身。信州大を卒業して県内で勤務医となり、巨摩共立病院(南アルプス市)の院長などを務めた。今も週1回、同院の内科で診療に当たっている。1960年代後半、昭和町の杉浦医院で住血吸虫症の治療に尽くしていた杉浦三郎(1895~1977)との出会いをきっかけに、住血吸虫の研究を始めた。巨摩共立病院に勤めながら、住血吸虫と肝硬変のかかわりなどを動物実験で調べ、博士号も取得した。(一部省略)

今年2月に長野県松本市の信州大で開かれた住血吸虫関連の講演会に参加。関係者から「住血吸虫の動画は見たことがない」という声を聞き、古い8ミリフィルムの存在を思い出した。自宅の本棚を探すと、カラーで撮影した約4分間のフィルム4本が保管されていた。1980~81年に撮ったもので、卵の中で動く幼虫や、中間宿主のミヤイリガイの体内で増殖した幼虫などが写っていた。(一部省略)

自身のナレーションで解説を入れて約17分のDVDに編集した。住血吸虫症が今でも流行している中国やフィリピンの人たちにも見てもらえるよう、英語の字幕を添えた。「山梨県は96年に終息宣言を出したが、県内にはまだ多くのミヤイリガイが生息している。この病気のことを忘れてはいけません」そんな思いから、現在は「昭和町風土伝承館杉浦医院」として住血吸虫症の資料館となっている杉浦医院(昭和町西条新田)にDVDを寄贈した。

(2015年7月7日朝日新聞 A15-1133 朝日新聞社に無断で転載することを禁止 レイアウト一部改変)

◆榎形図書館では、加茂さんよりDVD「日本住血吸虫の感染実験」の日本語版と英語版を寄贈していただきました。貸出もできます。貴重な資料をぜひご利用ください。

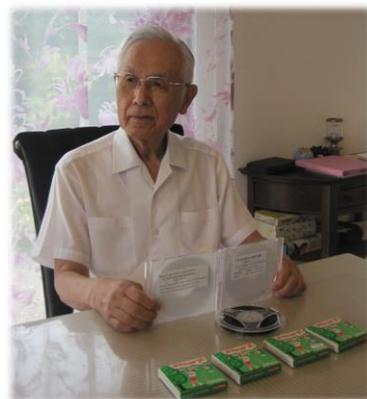
**動画サイト**「日本住血吸虫の生活サイクル 加茂悦爾」

(<https://www.youtube.com/watch?v=vcOM6fHcYgg>)

検索サイトで「日本住血 加茂」のキーワードでヒットします

**地方病に関する本**

- 『地方病とのたたかい』1977年
- 『地方病とのたたかい 体験者の証言』1979年
- 『地方病とのたたかい 日本住血吸虫病・医療編』1981年
- 『地方病とのたたかい 地方病流行終息へのあゆみ』2003年  
山梨地方病撲滅協力会・編



(4本の8ミリフィルムを前にして)

南アルプス市の  
**著名人**

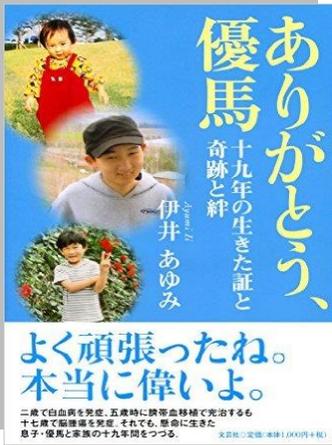
榎形図書館(055-280-3300) 榎形図書館芦安分館(055-282-7285) 白根桃源図書館(055-284-6010)  
八田ふれあい図書館(055-285-5010) わかくさ図書館(055-283-1501) 甲西図書館(055-282-7291)

## 甲西地区在住の伊井あゆみさんが 亡き息子さんの本を出版しました

### ありがとう、優馬 十九年の生きた証と奇跡と絆

伊井あゆみ/ 著  
文芸社

2013年2月に19歳で天国に旅立った優馬さんの、家族にささえられた闘病生活がていねいにつづられた手記です。優馬さんの「生きた証」が詰め込まれた本です。



### 著者・伊井あゆみさんからのメッセージ

私は甲西地区に移り住んで、この10月でちょうど20年になります。その間、長男の発病、再発、次男の衝撃的な出産と、本当に色々な事がありました。私自身は子どもの頃から本が大好きで、小学生の時はよく学校の図書室へ行っていました。3人の息子達は、誰もそんなところは似てくれませんでした。小さい頃は読んでもらうのが大好きで、甲西図書館へも足を運んだものです。

私は文章を書く事も好きだったので、長男が最初の病気を克服した頃から、いつか本を出したいという思いが芽ばえ始めました。でも、まさかこんな形でその“夢”が叶うとは思っていませんでした。そして、一昨年長男の優馬が亡くなってから、一層その思いが強くなり、出版を決めました。強く勧めてくださった方から、文字に記して残す事の大切さ、そしてそれが優馬の供養にも繋がる事を教わったのです。その方は、本の中にも出てくる長男と同じ病気で亡くなった子のお父さんで、同じ出版社から本を出版した市内在住の方です。

また、私と同じような境遇の方に読んでいただき、少しでも慰めや励みになってもらいたい、健康な子を持つ親の方には、その大切さ、有難みを実感してもらいたいと思いました。

そして、出版後はもう一つ望みが増えました。主人が、市川三郷町の教育委員会の方から、小中学校図書館への本の寄付の依頼を受けました。命の大切さを知ってもらうため児童にも読んでもらいたいとのことでした。私はこのような闘病記は、子ども向けではないという先入観があったのですが、それは間違いだったと気付きました。近年、小中学生の自殺が絶えないので、私の本が一人の命でも救う事に繋がってくれたら本当に嬉しいです。読んでくださった方々にも、小学生でも読み易いと言われました。内容に関しては、「とても感動した」とか、「同じ親として考えさせられる事があった」など、嬉しい声を聞くことができました。中でも特に嬉しかったのは、優馬の中学時代の友人が、これまでの彼の苦難を知る事によって、改めて優馬と3年間を共に楽しく過ごせて本当に良かったと言ってくれた事です。

当初、出版が決まった時は、優馬は内気で目立つ事が嫌いな子だったので、反対しているかなと思った時もありました。私の自己満足にすぎないのかもと思いつつも、優馬が喜んでくれているといいなと思います。そして、生前本人に直接言えなかった数々の言葉を、この本を通して伝えたいという思いもあります。本をさし上げたほとんどの方に、「きっと優馬くんは喜んでくれているよ」と言ってもらえたので、私も今ではそう信じています。この本が一人でも多くの方の励みや力となってくれる事を願っています。

高等学校卒業式の優馬さんと著者  
(家族提供写真)



伊井さんが『ありがとう、優馬』を出版された経緯は、2015年7月29日の山梨日日新聞でも紹介されました。優馬さんが生まれ育った南アルプス市内の方々にも読んでいただきたいというご両親の願いがあり、市立図書館へも2冊寄贈していただきました。ぜひご利用ください。